



読書界 1月号

「ラストが衝撃的な本」

『名も無き世界のエンドロール』 行成薫

幼いころからのいたずら好きで周囲を驚かしてきた「ドッキリリスト」のマコトは「ビビリリスト」のキダとともに、史上最大の「プロポーズ大作戦」を決行する____。半年前から13年前、7年前、10年前、5か月前、16年前……と行き来しながら語られていくのは「その日」までの長い時間。「1日あれば世界は変わる__。2日あったら宇宙がなくなってもおかしくない__。」男たちの命がけのドッキリは果たして成功するのか？そして明かされる衝撃の真実とは。大いなる「企み」を秘めた第25回小説すばる新人賞受賞作。必見です。

2-5 酒井 佑輔

『サンブンノイチ』 木下半太

飲食店「ハニーバニー」の店長のシュウ、常連の健さん、店員のコジは、ある時、人生の一発逆転を狙った銀行強盗に見事成功。奪った大金は3人で3分の1ずつ山分けする……はずだった。大金に目がくらみ、少しでも多く取り分を得ようとする3人は騙し合いを始める。そこにつけこんで大金を騙し取ろうとする者も現れ、予測不能の展開に！最後に大金を手に入れるのは誰なのか！？『ブンノイチ』シリーズの第1作目。大金を奪い合う者達による予測不能の騙し合いに、あなたも最後の最後まで騙され続けることでしょう。

2-9 高山 智大

『どこかでベートーヴェン』 中山七里

パツとしない高校の音楽科に転校してきた岬洋介。彼のピアノの才能は群を抜いていた。そんななか、クラスの問題児岩倉が殺される。状況証拠から疑いをかけられてしまう岬。そのせいで岬はクラスメイトから嫌がらせを受けるようになる。この状況を打破するために岬は素人探偵ながら、自力で事件を解決しようとしていく…。第8回このミステリーがすごい大賞受賞作『さよならドビュッシー』から続く、岬洋介シリーズ5巻目の作品です。岬洋介最初の事件。ずっとドキドキしっぱなしになる本です。ぜひ読んでみてください。

1-7 佐野 奏子

『夜行』 森見登美彦

長谷川さんが失踪した京都の鞍馬の火祭りから10年後、同じ英会話スクールだった友人達5人が再び鞍馬の火祭りを訪れる。そこで各々がこの10年にあった不思議な出来事を話していくが、それにはすべて岸田道生という画家が描いたとある絵画が関わっておりー。直木賞、本屋大賞にもノミネートされたこの作品。全5章で構成されており、1章から4章まではすっきりとしない終わり方ですが、5章になるとその謎がすべて解かれ、すっきりとすると同時に驚くべき結末があなたの眼前に現れることでしょう。

1-3 大久保 航